事　業　報　告　書

＝令和７年度＝

社　会　福　祉　法　人　**愛光会**

日頃より 社会福祉法人 愛光会 に温かいご支援、ご厚情、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和７年度における事業のご報告を申し上げます。

施設概要

○　社会福祉法人 愛光会

○　事業内容

●指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（定員 52 名）

●指定介護老人福祉施設（地域密着型特別養護老人ホーム）（定員 20 名）

●ケアハウス　（定員 30 名）

●指定居宅介護支援事業所

●指定居宅サービス事業

＊訪問介護　＊介護予防訪問介護

＊通所介護　＊介護予防通所介護　（定員 30 名）

＊短期入所生活介護 ＊介護予防短期入所生活介護　（定員 18 名）

(熊本市よりの委託事業)

●熊本市北４地域包括支援センター

地域支援活動一覧

地域支援活動実績報告

1. 地域の教育機関講座
   ＊近隣小学校への認知症講座・車いす講習等
2. 地域の教育機関との交流
   ＊さわやかフェスタ視聴、レンタル孫等
3. デイサービス送迎時　見守り巡回
4. オレンジカフェ　（毎月１回）
5. 地域行事（どんど焼き）協力

コロナウィルス感染予防のため、例年より縮小して活動を行った。

職員研修

・法人理念の浸透を図り、社会福祉法人の一員としての自覚と福祉専門職としての責任感の醸成を図るため
・専門知識・技術の向上とともに、権利擁護、接遇、メンタルヘルス、コンプライアンス等の理解を深め、利用者本位のサービス実践力を高めるため
・事故防止、感染症対策、BCP、虐待防止等の継続的な研修により、安全・安心なサービス提供体制の維持向上を図るため

月	内　容	講　師
4	理念塾	施設長
4	各部事業計画/安全運転/個人情報保護	各部課長/動画視聴
5	高齢者権利擁護	動画視聴
6	BCP 研修・感染症予防	動画視聴
6	接遇研修	講師
7	胸骨圧迫・AED 訓練/ 高齢者虐待防止	日赤講師/ 講師
8	メンタルヘルスについて/利用者本位について	ら・らぽーと/動画視聴
9	認知症/健康に関する研修	動画視聴
10	事故防止対策について	動画視聴
11	ハラスメントについて	動画視聴
12	BCP 研修	動画視聴
1	高齢者虐待防止・身体拘束の適正化について	動画視聴
2	介護休業/健康経営～飲酒について～	動画視聴
2	消火器の使い方・消防訓練	動画視聴
3	認知症・コンプライアンス	動画視聴

【幹部職員　研修】

月	内　容	講　師
11	リーダー研修（メンタルヘルス対策研修）	講師
11	ハラスメント研修（不機嫌ハラスメントにならないために）	動画視聴

令和7年度
特別養護老人ホームあいこう（従来型）
事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を施設サービスの根幹とし、基本理念を実現するために多職種が協働し施設サービスの質の向上に努めた。また、下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。加えて SDGsに掲げられている『すべての人に健康と福祉を』という目標に携わる施設であることを意識して運営した。

① **入居者処遇**・・・接遇４か条「1.笑顔　2.挨拶　3.言葉遣い　4.身だしなみ」及び処遇５か条「1.言葉かけ　2.触れ合い　3.笑顔　4.目線を合わせる　5.共感する」を実践し、かつ定期的な接遇研修も実施して入居者へのサービス向上に努めた。

② **個別ケアの実現**・・・個別ニーズに対応するため、入居者および家族から施設生活に関する要望等の聞き取りを実施し、可能な限り希望の実現に努めた。個別の誕生会や各種行事については、感染症対策を講じながら開催し、月１回のお手紙（生活状況報告）を通じて家族へ様子を伝えることで、施設での生活の雰囲気を共有することができた。これにより、担当職員と家族との信頼関係の構築にもつながった。
また、ホームページをリニューアルし、写真掲載について同意・許可を得た入居者に関しては、施設での生活状況を発信できる環境を整備した。これにより、家族に対する情報提供の充実と施設運営の透明性向上を図った。

③ **入居者の健康管理**・・・定期検診や日々の観察を十分に行い、異常の早期発見に努める。また、嘱託医や産業医、協力医療機関と連携を図り適切な処置・保健指導を行った。インフルエンザや新型コロナウイルスによるクラスターの発生はなかった。

④ **認知症ケア**・・・認知症介護の研修は認知症リーダー研修修了者を講師として特養あいこう会議内での研修会を開催した。入居者の９割以上に認知症疾患がある為、一人一人の症状に向き合い支援していく為には重要な研修・取り組みであり次年度も実施していく。

⑤ **事故防止の取り組み**・・・試行錯誤しながら事故防止対策に取り組んだが、70 件の事故が発生。そのうち行政報告の対象となった事故の件数は 15 件であった。確認不足や思い込みといった基本的事項の徹底不足が課題となった。

⑥ **リハビリテーション**・・・個別機能訓練計画書に沿って個別リハビリテーション及び生活リハビリテーションの充実を図った。入居者が日常生活内で自然にリハビリテーションができる環境作りを行った。また、年度途中から日常生活機能向上連携加算の算定に伴い外部 PT の助言が加わり根拠に基づいたポジショニング（座位・臥床姿勢）を学べた。

⑦ **看取り介護への取り組み**・・・看取り介護についての専門知識の向上を図るため研修を実施した。また看取り介護を行うにあたり、入居者及び家族の希望をできるだけ叶えるための体制作りを行った。令和 7 年度は 7 名の方の看取りを実施した。

⑧ **褥瘡予防対策**・・・褥瘡アセスメントをもとに褥瘡対策ケア計画書を作成。管理栄養士、看護職、介護職で連携を図り栄養管理・除圧・スキンケアに努めた。また、年 1 回は勉強会を開催し、褥瘡予防についての知識向上に努めた。重度の褥瘡形成のご入居者は専門医療機関を受診し、医療との連携のもとでケアを実施した。

⑨ **栄養管理**・・・食事摂取状況、体重変化や全身状態等のアセスメントやモニタリングを実施した。栄養ケア計画書の定期的見直しを行い適切な管理を行った。また、咀嚼嚥下機能の評価を行い最期まで口から食べることができるように支援した（経口維持加算の取り組み）。令和 8 年度においても、経口摂取している方全員に経口維持加算を算定して細やかな対応を実施していく。

⑩ **行事関係・レクリエーション**・・・施設内行事やレクリエーションについては、感染症対策を講じながら実施の在り方を工夫した年度であった。音楽レクリエーションや制作活動についても活発に実施することができ、入居者の楽しみや生きがいの創出につながった。令和 8 年度においても、安全面に配慮しつつ、どのような取り組みが可能かを検討し、引き続き創意工夫を重ねていく必要がある。

⑪ **環境整備（5S：整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）**・・・居室担当者が中心となり、その人らしく落ち着いて安心した生活ができる環境づくりに取り組んだ。

⑫ **人材教育方針（SDGs：質の高い教育をみんなに）**・・・毎月、内部研修を企画し、職員の知識とスキル向上を目指した。感染症対策、接遇等の研修、高齢者虐待防止研修・身体拘束廃止研修など多岐に渡り勉強会を実施した。

⑬ **丁寧な実習生指導**・・・「人材教育」「人材確保」という視点を持ちながら丁寧な指導を心掛けた。感染症対策を講じながら介護実習、看護実習の受け入れを実施した。「実習生にとって初めての現場」、「人材育成」ということの重要性を現場職員が再認識し、丁寧な指導を心掛けた。

⑭ **稼働率の向上（安定した収入の確保）**・・・退居から入居までの調整に時間がかかり、空床期間が長引いたことや長期入院による空床が発生したことなどに伴い、最終的には 94％の稼働率となった。非常に大きな反省点である。令和 7 年度は 11 名の方が退居の運びとなった。令和 8 年度は 95％以上の稼働率が確保できるように臨みたい。

⑮ **地域に根ざした施設作り**・・・麻生田小学校及び城北小学校とは総合的な学習の時間を使って交流を実施することができた。麻生田小学校では「施設の紹介」と「車いす講習会」、「認知症サポーター養成講座」、城北小学校では「車いす講習会」と「認知症サポーター養成講座」を開催。令和 8 年度も『地域に寄り添う、地域に何かしらを還元する』という姿勢を忘れずにできることを模索していきたい。

⑯ **感染症・災害に強い施設運営**・・・インフルエンザやノロウイルス等の感染症の防止に取り組み、予防から発生時の対応について職員研修等を充実させ感染ゼロを目指していた。職員 3 名・入居者 1 名の感染はあったが幸いにもクラスターにはならなかった。火災や地震などの災害に関しては図上訓練や避難訓練を重ねることで不測の事態に対応できるようにした。ＢＣＰ（事業継続計画書）もブラッシュアップしながら、緊急時の施設運営を見える化していきたい。

⑰ **科学的介護の取り組み・テクノロジーの活用（安全性向上・サービスの質向上・業務の効率化）・・・**LIFE へのデータ提出とフィードバックの活用により、PDCA サイクルの推進を図り、質の高いケアの実現に取り組んだ。従前よりベッド内蔵型離床センサー、シルエットセンサーおよび見守りカメラを段階的に導入・活用しており、ベッドサイドにおける事故防止や見守り体制の強化を進めてきた。今年度はこれら既存機器の運用をさらに定着・拡充するとともに、新たにインカム（ハナスト）を導入し、職員間の情報共有の迅速化と連携強化を図った。これらの取り組みにより、サービスの質の向上と業務の効率化を推進するとともに、段階的ではあるが職員の心理的・身体的負担の軽減にもつながっている。今後も、職員の経験や知識にテクノロジーを効果的に融合させ、さらなるサービスの質の向上を追求していく。

⑱ **介護報酬改定への対応・・・**加算の算定＝職員の努力している証・入居者へのサービス向上と捉え、算定できる加算については多職種連携の上で積極的に取り組んでいく。年度途中からは『生活機能向上連携加算』の算定ができる体制となった。

⑲ **外国人技能実習生の受け入れ・・・**既に在籍している技能実習生２名に加え、新たに特定技能外国人２名を受け入れた。「人材育成による国際貢献」という社会的使命を果たす取り組みであると同時に、人材確保の観点からも重要な施策である。ミャンマーから来た４名は意欲と向上心の高い人材であり、施設全体の活性化やサービスの質の向上につながっている。また、日本人職員にとっても良い刺激となり、職場全体の意識向上が見られた。

利用実績報告

	従来型					
月	MAX	延べ日数	空床(入院含む)	入院日数	平均	稼働率
4月	1560	1498	62	59	49.9	96.0%
5月	1612	1541	71	62	49.7	95.6%
6月	1560	1467	93	43	48.9	94.0%
7月	1612	1512	100	63	48.8	93.8%
8月	1612	1469	143	119	47.4	91.1%
9月	1560	1436	124	79	47.9	92.1%
10月	1612	1486	126	80	47.9	92.2%
11月	1560	1453	107	84	48.4	93.1%
12月	1612	1527	85	54	49.3	94.7%
1月	1612	1522	90	69	49.1	94.4%
2月	1456	1420	36	20	50.7	97.5%
3月	1612	1498	114	44	48.3	92.9%
計		17829	1151	776		
平均		1485.8	95.9	64.7	48.9	**94.0%**

事故報告･ひやりハット件数

事故報告件数	ひやりハット報告件数
70 件	293 件
事故報告件数の内で熊本市へ報告した事故件数 （報告の条件：受診や入院が発生・誤嚥・誤薬・離設など）	
15 件	

＊月に１回の事故防止小委員会、３か月に１回の事故防止大委員会において事故検証・防止について会議をしておりますので、細かな内訳記載は省かせて頂きます。

苦情処理対応報告

令和７年度においては、苦情処理として対応しなければならなかった事案は『０』であった。ただし、『苦情がない＝ご入居者・ご家族が満足』とは考えずに、常に改善や修正、気配り、心配りをしていきたいと思っている。

行事開催実績

月	行事内容	個別誕生会
4 月	花まつり	ご入居者 誕生月に実施
5 月	新茶を楽しむ会（母の日行事）夏野菜植え（稲植え）	
6 月	父の日行事・夏野菜収穫	
7 月	夏祭り	
8 月	夏のレクリエーション・秋野菜植え	
9 月	敬老会	
10 月	運動会・稲刈り	
11 月	秋のレクレーション・秋野菜収穫・春野菜植え	
12 月	クリスマス・忘年会	
1 月	元旦行事・写真撮影（お屠蘇）	
2 月	節分行事（豆まき）	
3 月	個別外出（お花見）・春野菜収穫	

研修･勉強会開催実績

＊毎月第一火曜日特養会議内で開催

月	研修内容
4 月	■『令和 7 年度の事業計画の共有』 ■『接遇・プライバシー保護、権利擁護』 （指針に基づいた身体拘束廃止・虐待防止研修）
5 月	■『地震訓練・避難誘導訓練の確認』 ■『事業継続計画（ＢＣＰ）の確認・見直し』
6 月	■『緊急時の対応方法（夜間緊急時を中心に確認）』 ■『AED の使用方法等』
7 月	■『生きるため、幸せのため』：口腔衛生管理指導研修 ：ひとのわハロー歯科　歯科衛生士
8 月	■『感染症対策についての総合研修』 ＊各種感染症の知識・予防方法について ＊発生を想定したシミュレーション（図上訓練）
9 月	■『事故防止対策・安全管理について （事故発生時の報告や適切な対応含む）』
10 月	■『火災訓練について・災害ＢＣＰの見直しについて』 （避難誘導の図上訓練）
11 月	■ターミナルケア・看取り介護について ■褥瘡予防・対応研修
12 月	■『接遇・プライバシー保護、権利擁護』 （指針に基づいた身体拘束廃止・虐待防止研修）
1 月	■『認知症介護について（認知症リーダー研修受講者より）』 ■『事故防止対策・安全管理について』 （発生後の報告・適切な対応方法について） ■『ターミナルケア・看取り介護について』
2 月	■『感染症対策についての総合研修』 ＊各種感染症の知識・予防方法について ＊発生を想定したシミュレーション（図上訓練） ＊感染症ＢＣＰの見直し
3 月	■『歯茎・舌の汚れについて』：口腔衛生管理指導研修 ：ひとのわハロー歯科　歯科衛生士

＊上記以外にも法人全職員を対象とした研修を実施している

地域行事参加実績

オレンジカフェ岩倉台（麻生田校区）：5 月・11 月
麻生田小学校・城北小学校 （車椅子及び高齢者疑似体験・認知症サポーター養成講座）

リデルライトとの事故事例検討会実績

＊法人の枠組みを超えての合同事故事例検討会

（基本は第 3 水曜日） 14 時 30 分～15 時
6 月・8 月・11 月・2 月

令和 7 年度　総括

令和 7 年度の稼働率は 94%となり、前年度より上昇した。空床期間の短縮に努め、入退居の調整を迅速に行ったことが要因である。感染症対策においては、インフルエンザや新型コロナウイルスによるクラスターの発生はなく、不安を招く事態を回避することができた。

一方、入院者は延べ 29 名であり、職員の不注意による事故に起因するものも含まれている。行政報告対象の事故は 15 件発生し、誤薬も多く見られるなど、確認不足や思い込みといった基本的事項の徹底不足が課題として明らかとなった。本来防ぐことのできる事故を防ぐため、業務の確実な遂行を徹底していく必要がある。

看取り介護については、退居者 11 名のうち 7 名を看取り対応し、最期までご入居者・ご家族の思いに寄り添う支援に努めた。

本年度の総括として、「お預かりした大切な命を守る」という原点に立ち返り、職員一人ひとりが責任ある行動を徹底するとともに、今後も嘱託医をはじめ法人全体で連携し、安全で安心できるサービス提供に努める。令和 8 年度は収益向上と「あいこうなら安心」と思っていただける施設づくりを推進していきたい。

令和７年度
地域密着型特別養護老人ホームあいこう ひかり館
事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を施設サービスの根幹とし、基本理念を実現するために多職種が協働し施設サービスの質の向上に努めた。また、下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。加えて SDGsに掲げられている『すべての人に健康と福祉を』という目標に携わる施設であることを意識して運営した。

① **入居者処遇**・・・接遇４か条「1.笑顔　2.挨拶　3.言葉遣い　4.身だしなみ」及び処遇５か条「1.言葉かけ　2.触れ合い　3.笑顔　4.目線を合わせる　5.共感する」を実践し、年２回の接遇研修も実施して入居者へのサービス向上に努めた。

② **個別ケアの充実**・・・ユニットケアの質の向上を目標として掲げ、個別ニーズに対応するため、入居者および家族から施設生活に関する要望等の聞き取りを実施し、可能な限り希望の実現に努めた。個別の誕生会や各種行事については、感染症対策を講じながら開催し、月 1 回のお手紙（生活状況報告）を通じて家族へ様子を伝えることで、施設での生活の雰囲気を共有することができた。これにより、担当職員と家族との信頼関係の構築にもつながった。また、ホームページをリニューアルし、写真掲載について同意・許可を得た入居者に関しては、施設での生活状況を発信できる環境を整備した。これにより、家族に対する情報提供の充実と施設運営の透明性向上を図った。

③ **入居者の健康管理**・・・定期検診や日々の観察を十分に行い、異常の早期発見に努める。また、嘱託医や産業医、協力医療機関と連携を図り適切な処置・保健指導を行った。

④ **認知症ケア**・・・認知症の原因となる疾患を正確に把握し、疾患ごとの特徴や対応方法についての知識を深めた。ケアカンファレンスやユニットミーティングを通して多職種協働で対応方法を検討した。ご入居者のほとんどが何らかの認知症疾患がある為に、一人一人の症状に向き合い支援していく為には重要な研修であり次年度も実施していく。

⑤ **事故防止の取り組み**・・・試行錯誤しながら事故防止対策に取り組んだが、15 件の事故が発生。そのうち行政報告の対象となった事故の件数は 2 件であった。どうしても防ぎようのない事故もあるが、「事故を起こさない」「事故を減らす」という意識はスタッフ個々で高めることが必要である。

⑥ **リハビリテーション**・・・個別機能訓練計画書に沿って個別リハビリテーション及び生活リハビリテーションの充実を図った。入居者が日常生活内で自然にリハビリテーションができる環境作りを行った。また、年度途中から日常生活機能向上連携加算の算定に伴い外部 PT の助言が加わり根拠に基づいたポジショニング（座位・臥床姿勢）を学べた。

⑦ **看取り介護への取り組み**・・・いつでも看取り介護に対応出来る様、専門知識の向上を図り、入居者及び家族の希望をできるだけ叶えるための体制作りや、環境設定に努めた。令和 7 年度は 3 件の看取りを実践した。

⑧ **褥瘡予防対策**・・・褥瘡アセスメントをもとに褥瘡対策ケア計画書を作成。管理栄養士、看護職、介護職で連携を図り栄養管理・除圧・スキンケアに努めた。また、年 1 回は勉強会を開催し、褥瘡予防についての知識向上に努めた。重度の褥瘡形成のご入居者は専門医療機関を受診し、医療との連携のもとでケアを実施した。

⑨ **栄養管理**・・・食事摂取状況、体重変化や全身状態等のアセスメントやモニタリングを実施。栄養ケア計画書の定期的見直しを行い適切な管理を行った。また、咀嚼嚥下機能の評価を行い最期まで口から食べることができるように支援した（経口維持加算の取り組み)。令和 8 年度においても、経口摂取している方全員に経口維持加算を算定してより細やかな対応を実施していく。

⑩ **行事関係**・・・施設内行事やレクリエーションについては、感染症対策を講じながら実施の在り方を工夫した年度であった。令和 8 年度も感染症予防と両立してどれだけのことができるか創意工夫を行っていく必要がある。

⑪ **環境整備（5S:整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）**・・・入居者一人一人が安心し、その人らしく落ち着いて生活できる環境づくりを行った。居心地のよい空間を提供した。

⑫ **人材教育方針**・・・毎月、内部研修を企画し、職員の知識とスキル向上を目指した。感染症、接遇等の研修、高齢者虐待防止研修・身体拘束廃止研修など多岐に渡り勉強会を実施した。クラスター未経験の施設である為、感染症については対応をおろそかにしないよう職員教育をしっかりと行うことが様々なリスク管理に繋がっていく。

⑬ **丁寧な実習生指導**・・・「人材教育」「人材確保」という視点を持ちながら丁寧な指導を心掛けた。感染症対策を講じながら介護実習、看護実習の受け入れを実施した。「実習生にとって初めての現場」、「人材育成」ということの重要性を現場職員が再認識し、丁寧な指導を心掛けた。

⑭ **稼働率の向上（安定した収入の確保）**・・・入居者の健康管理及び待機者管理、そして医療機関との連携・調整を強化してきたが、入院・退居が続き稼働率92％であった。令和７年度は５名の方が退居の運びとなった。令和８年度は95％以上確保できるように臨みたい。

⑮ **地域に根ざした施設作り**・・・麻生田小学校及び城北小学校とは総合的な学習の時間を使って交流を実施することができた。麻生田小学校では「施設の紹介」と「車いす講習会」、「認知症サポーター養成講座」、城北小学校では「車いす講習会」と「認知症サポーター養成講座」を開催。『地域に寄り添う、地域に何かしらを還元する』という姿勢を忘れずにできることを模索していきたい。

⑯ **感染症・災害に強い施設運営**・・・インフルエンザやノロウイルス等の感染症の防止に取り組み、予防から発生時の対応について職員研修等を充実させ感染ゼロを目指していた。職員２名・入居者１名の感染はあったが幸いにもクラスターにはならなかった。火災や地震などの災害に関しては図上訓練や避難訓練を重ねることで不測の事態に対応できるようにした。ＢＣＰ（事業継続計画書）もブラッシュアップしながら、緊急時の施設運営を見える化していきたい。

⑰ **科学的介護の取り組み･テクノロジーの活用（安全性向上･サービスの質向上･業務の効率化）・・・LIFE** へのデータ提出とフィードバックの活用により、PDCA サイクルの推進を図り、質の高いケアの実現に取り組んだ。従前よりベッド内蔵型離床センサー、シルエットセンサーおよび見守りカメラを段階的に導入･活用しており、ベッドサイドにおける事故防止や見守り体制の強化を進めてきた。今年度はこれら既存機器の運用をさらに定着･拡充するとともに、新たにインカム（ハナスト）を導入し、職員間の情報共有の迅速化と連携強化を図った。これらの取り組みにより、サービスの質の向上と業務の効率化を推進するとともに、段階的ではあるが職員の心理的･身体的負担の軽減にもつながっている。今後も、職員の経験や知識にテクノロジーを効果的に融合させ、さらなるサービスの質の向上を追求していく。

⑱ **介護報酬改定への対応**・・・加算の算定＝職員の努力している証・入居者へのサービス向上と捉え、算定できる加算については多職種連携の上で積極的に取り組んでいく。年度途中からは『生活機能向上連携加算』の算定ができる体制となった。

利用実績報告

	ひかり館					
月	MAX	延べ日数	空床(入院含む)	入院日数	平均	稼働率
4月	600	528	72	39	17.6	88.0%
5月	620	550	70	39	17.7	88.7%
6月	600	540	60	0	18.0	90.0%
7月	620	527	93	6	17.0	85.0%
8月	620	534	86	0	17.2	86.1%
9月	600	578	22	0	19.3	96.3%
10月	620	620	0	0	20.0	100.0%
11月	600	600	0	0	20.0	100.0%
12月	620	600	20	0	19.4	96.8%
1月	620	576	44	38	18.6	92.9%
2月	560	532	28	28	19.0	95.0%
3月	620	589	31	0	19.0	95.0%
計		6774	526	150		
平均		564.5	43.8	12.5	18.6	**92.8%**

事故報告･ひやりハット件数

事故報告件数	ひやりハット報告件数
15 件	137 件
事故報告件数の内で熊本市へ報告した事故件数 （報告の条件：受診や入院が発生した・誤嚥・誤薬・離設など）	
2 件	

＊月に１回の事故防止小委員会、３か月に１回の事故防止大委員会において事故検証・防止について会議をしておりますので、細かな内訳記載は省かせて頂きます。

苦情処理対応報告

令和７年度においては、苦情処理として対応しなければならなかった事案は『０』であった。ただし、『苦情がない＝ご入居者・ご家族が満足』とは考えずに、常に改善や修正、気配り、心配りをしていきたいと思っている。

行事開催実績

実施月	行事内容	個別誕生会
4 月	お花見見学（八景水谷公園）	ご入居者 誕生月に実施
5 月	母の日・新茶を楽しむ会	
	菖蒲湯	
6 月	父の日	
7 月	うなぎの出前	
8 月	夏祭り・おやつ作り	
9 月	敬老会	
10 月	花植え	
11 月	出前（お寿司）紅葉見学（県庁）	
12 月	ゆず湯	
	クリスマス会	
1 月	元旦行事・写真撮影（お屠蘇）	
2 月	節分（豆まき）	
3 月	ひな祭り・お菓子作り	

研修･勉強会開催実績

＊毎月ユニットミーティングにて開催

月	研修内容
4 月	■『令和 7 年度の事業計画の共有』 ■『接遇・プライバシー保護、権利擁護』 （指針に基づいた身体拘束廃止・虐待防止研修） ■24 時間シート見直し
5 月	■『地震訓練・避難誘導訓練の確認』 ■『事業継続計画（ＢＣＰ）の確認・見直し』
6 月	■『緊急時の対応方法（夜間緊急時を中心に確認）』 ■『AED の使用方法等』
7 月	■『生きるため、幸せのため』：口腔衛生管理指導研修 ひとのわハロー歯科　歯科衛生士 ■24 時間シート見直し
8 月	■『感染症対策についての総合研修』 ＊各種感染症の知識・予防方法について ＊発生を想定したシミュレーション（図上訓練）
9 月	■『認知症介護について』 ■『事故防止対策・安全管理について』 （発生後の報告・適切な対応方法について）
10 月	■『火災訓練について・災害ＢＣＰの見直しについて』 （避難誘導の図上訓練） ■24 時間シート見直し
11 月	■ターミナルケア・看取り介護について ■褥瘡予防・対応研修
12 月	■『接遇・プライバシー保護、権利擁護』 （指針に基づいた身体拘束廃止・虐待防止研修）
1 月	■『事故防止対策・安全管理について』 （発生後の報告・適切な対応方法について） ■24 時間シート見直し
2 月	■『感染症対策についての総合研修』 ＊各種感染症の知識・予防方法について ＊発生を想定したシミュレーション（図上訓練） ＊感染症ＢＣＰの見直し
3 月	■『歯茎・舌の汚れについて』：口腔衛生管理指導研修 ：ひとのわハロー歯科　歯科衛生士

＊上記以外にも法人全職員を対象とした研修を実施している

※KYT 訓練は毎月行う

地域行事参加実績

オレンジカフェ岩倉台（麻生田校区）：6 月・12 月
どんどやお手伝い：1 月
麻生田小学校・城北小学校 （車椅子及び高齢者疑似体験・認知症サポーター養成講座）

リデルライトとの事故事例検討会実績

＊法人の枠組みを超えての合同事故事例検討会

開催月（基本は第 3 水曜日）　14 時 30 分～15 時
6 月・8 月・11 月・2 月

令和 7 年度　総括

令和 7 年度の稼働率は 92%となり、前年度よりは上昇したが上半期は空床が継続するなど収益面では課題が残る結果となった。いかに空床期間を短縮できるかが重要である。

事故については大きな事案はなかったが、「事故を起こさないという意識」を職員一人ひとりが持ち、日々の業務にあたることの重要性を改めて認識した。

看取り介護については、退居者 5 名のうち 3 名を看取り対応し、最期の瞬間までご入居者・ご家族の希望に寄り添った支援に努めた。

感染症対策においては、クラスターの発生はなく、日頃からの感染対策の徹底と職員の意識向上の成果であると考える。今後も嘱託医をはじめ、部署を超えた法人全体で連携し対応していく必要がある。

令和 8 年度は、収益の向上を図るとともに、安心してご利用いただける施設づくりを推進していく。

令和７年度　指定短期入所生活介護事業所あいこう
（指定介護予防短期入所生活介護事業所あいこう）
事業報告

指定短期入所生活介護事業所あいこう及び指定介護予防短期入所生活介護事業所あいこうの事業報告にあたっては、あいこうの基本理念《夢・愛・自然・尊厳》を念頭に置きながら、具体的に以下の事項に力を入れました事をご報告致します。加えて SDGsに掲げられている『すべての人に健康と福祉を』という目標に携わる施設であることを意識して運営した。

① **利用者処遇**・・・接遇４ヶ条（1 笑顔　2 挨拶　3 言葉遣い　4 身だしなみ）処遇５ヶ条（1 言葉かけ　2 触れ合い　3 笑顔　4 目線を合わせる　5 共感する）を実践し、かつ年２回の接遇研修も実施して利用者への接遇サービス向上に努めた。

② **個別ケアの実現**・・・生活歴や性格等を担当者会議時にできるだけ把握し現場と共有してその方に合わせた対応を心掛けた。また、SS は在宅がベースであるという点から食事形態やトイレでの排泄等、在宅と同じ対応で行うように心掛けた。また、不快感のない環境整備にも心掛けた。

③ **認知症ケア**・・・認知症介護の研修は認知症リーダー研修修了者を講師として特養あいこう会議内での研修会を開催した。入居者の９割以上に認知症疾患がある為、一人一人の症状に向き合い支援していく為には重要な研修・取り組みであり次年度も実施していく。

④ **事故防止の取り組み**・・・試行錯誤しながら事故防止対策に取り組んだが 17 件の事故、そのうち行政報告の対象となった事故の件数は 0 件であった。ＳＳはあくまでも一時的な宿泊であり、利用中の事故で自宅に帰れなくなるような事態は避けなければならない。次年度も「事故を起こさない」「事故を減らす」という意識をスタッフ個々が高めることが必要である。

⑤ **リハビリテーション**・・・個別リハビリテーション及び生活リハビリテーション等の充実を図った。利用中にＡＤＬが低下しないように努めた。

⑥ **栄養管理**・・・在宅生活を想定した食事形態を提供。食事形態も極端に変更せずに、できるだけ在宅と同じように支援した。

⑦ **行事関係・レクリエーション**・・・施設内行事やレクリエーションについては、感染症対策を講じながら実施の在り方を工夫した年度であった。音楽レクリエーションや制作活動についても活発に実施することができ、入居者の楽しみや生きがいの創出につながった。令和８年度においても、安全面に配慮しつつ、どのような取り組みが可能かを検討し、引き続き創意工夫を重ねていく必要がある。

⑧ **環境整備（施設整備・修繕含む）**・・・利用者一人一人が安心して、その人らしく落ち着いて利用できる環境づくりを行った。また、修繕や改修・取替えが必要な備品整備も実施した。

⑨ **人材教育方針（SDGs：質の高い教育をみんなに）**・・・毎月、内部研修を企画し、職員の知識とスキル向上を目指した。感染症対策、接遇等の研修、高齢者虐待防止研修・身体拘束廃止研修など多岐に渡り勉強会を実施した。

⑩ **アセスメント・ケアプラン・ケース記録の充実**・・・ケアプランに沿った支援が大切であるかを職員に意識付けさせるよう努めた。また、ケアカルテの導入により、記録の充実や情報の共有が以前よりもスムーズになった。

⑪ **環境整備（5S：整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）**・・・仕事が円滑に行くようにサービスステーション内の整理整頓を心掛けた。利用者の荷物の管理においては紛失物がないようにチェック時にタブレットで写真を撮影することで画像を活用するなどの工夫を行った。

⑫ **医療・保健・衛生面の管理**・・・SS 利用中に体調不良になられる方も多く、日々の健康観察を強化するとともに、早期発見・早期対応に努めた。また、看護職員との連携を密にし、必要に応じて家族や医療機関への速やかな連絡・対応を行う体制を整備した。これにより、重症化の予防と利用者の安全・安心の確保につながっている。

⑬ **稼働率の安定**・・・長期の利用者確保と制度の中でできる範囲の利用方法を模索して、稼働率も57%と前年度を上回る数字となった。令和８年度は60%以上の稼働率を目指したい。

⑭ **レセプトの正確な処理・・・**利用実績のもと各居宅介護支援事業所との利用日数や栄養課との食数の突合をしっかり行い過誤請求が起きないように遂行した。幸いにも家族・居宅に迷惑をかけるような重大な過誤請求などはなく処理することができた。

⑮ **感染症・災害に強い施設運営・・・**インフルエンザやノロウイルス等の感染症の防止に取り組み、予防から発生時の対応について職員研修等を充実させ感染ゼロを目指していた。職員 3 名・利用者 1 名の感染はあったが幸いにもクラスターにはならなかった。火災や地震などの災害に関しては図上訓練や避難訓練を重ねることで不測の事態に対応できるようにした。ＢＣＰ（事業継続計画書）もブラッシュアップしながら、緊急時の施設運営を見える化していきたい。

⑯ **テクノロジーの活用（安全性向上・サービスの質向上・業務の効率化）・・・**従前よりベッド内蔵型離床センサー、シルエットセンサーおよび見守りカメラを段階的に導入・活用しており、ベッドサイドにおける事故防止や見守り体制の強化を進めてきた。今年度はこれら既存機器の運用をさらに定着・拡充するとともに、新たにインカム（ハナスト）を導入し、職員間の情報共有の迅速化と連携強化を図った。これらの取り組みにより、サービスの質の向上と業務の効率化を推進するとともに、段階的ではあるが職員の心理的・身体的負担の軽減にもつながっている。今後も、職員の経験や知識にテクノロジーを効果的に融合させ、さらなるサービスの質の向上を追求していく。

⑰ **介護報酬改定への対応・・・**加算の算定＝職員の努力している証・入居者へのサービス向上と捉え、算定できる加算については多職種連携の上で積極的に取り組んでいく。

⑱ **外国人技能実習生の受け入れ・・・**既に在籍している技能実習生２名に加え、新たに特定技能外国人２名を受け入れた。「人材育成による国際貢献」という社会的使命を果たす取り組みであると同時に、人材確保の観点からも重要な施策である。ミャンマーから来た４名は意欲と向上心の高い人材であり、施設全体の活性化やサービスの質の向上につながっている。また、日本人職員にとっても良い刺激となり、職場全体の意識向上が見られた。

利用実績報告

	ショートスティ				
月	MAX	延べ利用日数	空床	平均	稼働率
4月	540	281	259	9.4	52.0%
5月	558	294	264	9.5	52.7%
6月	540	288	252	9.6	53.3%
7月	558	316	242	10.2	56.6%
8月	558	259	299	8.4	46.4%
9月	540	275	265	9.2	50.9%
10月	558	346	212	11.2	62.0%
11月	540	375	165	12.5	69.4%
12月	558	375	183	12.1	67.2%
1月	558	298	260	9.6	53.4%
2月	504	344	160	12.3	68.3%
3月	558	332	226	10.7	59.5%
計		3783	2787		
平均		315.3	232.3	10.4	**57.7%**

事故報告・ひやりハット件数

事故報告件数	ひやりハット報告件数
17 件	78 件
事故報告件数の内で熊本市へ報告した事故件数 （報告の条件：受診や入院が発生した・誤嚥・誤薬・離設など）	
0 件	

＊月に１回の事故防止小委員会、３か月に１回の事故防止大委員会において事故検証・防止について会議をしておりますので、細かな内訳記載は省かせて頂きます。

苦情処理対応報告

令和７年度の短期入所生活介護事業所の活動においては、苦情処理で対応しなければならない事案はなかった。ただし、苦情がないからご利用者・ご家族が満足しているとは考えずに、気配り・心配りをしていきたい。

令和 7 年度　総括

平均稼働率は 57%を維持し、前期と比較して安定した状況で推移した。長期利用希望者を柔軟に受け入れることで、稼働率向上に一定の成果が見られた。一方で、目標水準には達しておらず、今後の課題として引き続き改善が求められる。なお、感染症対策の徹底により、クラスターの発生はなかった。

令和 7 年度
ケアハウスあいこう
事業報告

令和 7 年度は、「地域貢献」と「介護予防の啓発」に取り組むことを目標としてきました。しかし、十分な活動ができたとは言えず、今後はより地域に根差した施設となるための取り組みが必要であると感じています。
また、ご入居者については高齢化が進み、病状の悪化や体力低下が見られました。その結果、長年生活されてきた方のご逝去や退去が多い一年となりました。
これらの反省を踏まえ、以下のとおり事業報告を行います。

① ご入居者の QOL（生活の質）の維持・向上
（SDGs 目標 3「健康と福祉」に関連）

1. 相談業務の充実
ご入居者一人ひとりの状態を把握し、それに応じた相談支援を行うことができました。ご家族やケアマネジャーとの情報共有も十分に行えましたが、医療機関との連携については今後の課題です。

2. 感染症対策の実施
年度内に感染症の発生はありませんでした。日頃から、ご入居者やご家族、面会者に対し感染対策への協力をお願いしてきた成果と考えます。今後も社会の状況に応じた対策を継続していきます。

3. レクリエーションの充実
実施回数は多くありませんでしたが、内容を工夫した活動を行うことができました。ご入居者それぞれの経験や記憶を活かした関わりにより、会話や交流の広がりも見られました。

4. 介護予防の取り組み
事業計画に基づいた取り組みを継続して実施することができました。

5. 生活に関するアンケートの実施
令和８年２月～3 月にアンケートを実施し、いただいたご意見には個別に回答しました。今後の運営改善に活かしていきます。

6. 環境整備
業務の進行状況に応じて適宜実施しました。

7. 共用スペースの活用
行事やレクリエーションでは活用できましたが、日常的な利用は十分とは言えませんでした。今後は自然に利用できるような雰囲気づくりが必要です。

8. 職員教育
日々の出来事を職員間で共有し、話し合うことで対応力の向上につながりました。また、研修の内容を共有することで、知識の習得と振り返りの機会となりました。

② 地域との連携と地域貢献

1. オレンジカフェ等への参加
2月の当番を担うことができず、課題が残りました。

2. 町内活動への参加
組長として毎月公民館に出向き、地域の方からの相談（感染症や介護）に対応しました。また、4月の総会にも参加しました。

3. 地域との連携強化
具体的な取り組みは十分に実施できませんでした。今後、ケアハウスとして地域でどのような役割を担うか引き続き検討していきます。

③ 経営の安定

1. 入居希望者の情報収集
積極的な取り組みができていませんでした。今後は施設の周知活動を強化する必要があります。

2. 健康管理と介護予防
日々の観察により健康状態の把握はできていましたが、受診後の情報収集に課題がありました。

3. 関係機関との連携
他部署や専門職との情報共有は、昨年度より改善され、円滑に行うことができました。

④ 生産性の向上

1. 職員の意欲向上（エンゲージメント）
職員間のコミュニケーションを重視し、提案や実践を評価することで、業務への意欲向上が見られました。また、ご入居者の住み替え時期について共有することで、より良い支援を考える意識が高まりました。

⑤ ケアの質向上に向けた業務改善

1. 5S の実践
整理・整頓・清掃・清潔・しつけを日常的に行うことで、業務効率の向上や安全性の確保、チームワークの強化につながりました。

⑥ 職員教育・人材育成
内外の研修受講とその振り返りにより、職員の知識や意欲の向上が見られました。

⑦ 苦情
今年度は苦情の申し出はありませんでした。

令和７年度
デイサービスあいこう
事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を在宅サービスの根幹とし、その基本理念を実現するために多職種が協働し在宅サービスの質の向上に努めた。今年度も様々な感染症への対策を取りながら、下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。

① **利用者処遇**・・・接遇４か条「１.笑顔　２.挨拶　３.言葉遣い　４.身だしなみ」及び処遇５か条「１.言葉かけ　２.触れ合い　３.笑顔　４.目線を合わせる　５.共感する」を徹底し、接遇目標を掲げご利用者へのサービス向上に努めた。接遇委員会を中心に 2 月毎に目標を設定し目標の達成度の確認や反省点を活かす対応を行った。ご利用者の表情や体調を見ることでより丁寧な対応ができていたと思う。

② **安定した経営**・・・目標の数値には到達できなかったが、前年度よりも良い数字を挙げることができた。夏季は体調を崩される方が多く、通年と傾向が変わってきているように思う。また、在宅での生活の継続が困難であるケースも増えている。今後も新規利用者の獲得・柔軟な受け入れを行う。又、職員一同収入と支出を意識して業務にあたるようにしたい。

③ **利用者ニーズ**・・・お一人お一人の状態に応じた個別ケアに取り組んだ。利用者アンケートや担当者会等でご本人・ご家族の要望をお聞きし、実行出来るか否かその都度職員間で話し合い、利用日の変更・追加、ご希望の時間に配慮した送迎の対応や必要な方への家庭内支援に努めた。

④ **行事・レクリエーション**・・・感染症対策を取りながら、ボランティアの受け入れを行い、敬老週間等のリサイタルや似顔絵等ご利用者に楽しんで頂ける時間をもつことが出来た。午前中は塗り絵や頭の体操を中心に入浴やリハビリ、午後は習字やゲーム・製作活動等希望される方に参加して頂いている。外出行事を取り入れ、初詣や花見で季節を感じて頂く他にも、ご希望されていた買い物にも行くことが出来た。他にもご利用者同士・職員との交流も楽しみにされており、とくし丸でのお買い物も楽しまれていた。

⑤ **業務改善**・・・入浴のご希望者が多くなっており、入浴中心の対応になってしまう中でも、ご利用者に喜んで頂けるような行事を工夫しながら行っている。電子カルテへの移行も進んでおり、全職員が対応できるようになってきている。継続し働き易い職場環境作りを目指していきたい。

⑥ **リスクマネジメント**・・・事故報告件数〔車輌５件　身体１０件〕事故報告として、職員の不注意や確認不足によるもの・ご利用者の予想できないような行動での報告があがっている。ヒヤリハット報告１９８件だった。ヒヤリハット報告では職員の確認不足によるものも多く上がっており、改善点を話し合い大きな事故に繋がらないよう工夫してきた。車両事故では車両を擦る事故が多く上がっていたため、同じ事故を繰り返さないよう職員に指導し、事故防止に繋げていきたい。又、感染症対策として「マスク着用の声掛け・手洗いや手指消毒・換気・テーブル・手すり・車輌の消毒・感染症罹患者がおられた時は早めの対応」を継続して行ったことで大きな感染症の拡大は防ぐことができた。

⑦ **入浴**・・・自宅での入浴が困難な方に安全な入浴の提供を行い、清潔の保持に取り組んだ。また、体を温め血行を促し疼痛緩和、気分転換に努めた。その際、全身状態の観察を行い塗り薬の塗布や傷の処置、必要時ご家族に医療機関への受診を勧めている。乾燥肌の方にはワセリン等を塗布し、スキンケアにも取り組んだ。

⑧ **個別機能訓練**・・・昼食前のストレッチ体操や午後のレク体操に加えエスカルゴ・ニューステップ・エアロバイク・プーリー等を使用し、筋力維持・関節可動域向上に努めた。以前行っていた平行棒体操を取り入れることで、下肢筋力の維持につながっていると思われる。また、日常生活動作の評価を行い維持・向上を目的とした訓練を実施することで、在宅生活の維持に繋がっていると思われる。

⑨ **口腔ケア**・・・誤嚥性肺炎の予防に取り組むことを目的に、食前の口腔体操・唾液腺マッサージ・食後の口腔ケアで口腔内環境の改善に努めた。現在、口腔機能に問題のあるご利用者にケアを促し対象者を増やしているところである。

⑩ **地域貢献**・・・今年度はオレンジカフェへの参加や地域の活動のお手伝い等に出向くことが出来た。地域のニーズが把握出来るよう活動を増やしていきたい。又、送迎時にも周囲への見守りを行っている。中学校からのナイストライ・高校生の実習ワークキャンプの受け入れも行った。今後も要望に沿い受け入れていく。

※苦情について・・・

・「お迎えの時間が遅くなっている」

・「職員の言葉が少しきつく感じたことがあった」などの声が聞かれていた。直ぐに対応することで早期解決につなげている。

令和 7 年度
指定居宅介護支援事業所あいこう
事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念「夢・愛・自然・尊厳」を指針とし、利用者の自立した在宅生活を支援すべく、質の高いケアマネジメントの提供に努めた。 本年度は業務効率化と専門性向上のため、生成 AI の活用やケアプランデータ連携システムを導入し、生産性の向上を図った。また、懸案事項であった「法人内での予防委託の受け入れ」についても、事務所の協力を得て指定介護予防支援事業の指定申請を完了させた。 地域貢献の面では、SDGs の実践としての清掃活動、ならびに認知症高齢者声かけ訓練やオープンケアキッズ、オレンジカフェ等へ積極的に参画し、地域社会との連携を深めた一年であった。

① **担当件数の確保（実績：月平均 158 件）**

- 評価： 令和 7 年度の総請求件数は 1,896.4 件となり、前年度比プラス 64.7 件の実績を収めた。
- 要因： 近隣の地域包括支援センターや医療機関への積極的なリーフレット配布・営業活動が功を奏したと考えられる。
- 次年度の方針： 6 月より開始予定の「指定介護予防支援事業」を通じ、要支援者の新規受け入れを強化することで、さらなる担当件数の安定確保に努める。

② **新人教育・人材育成**・・・介護支援専門員実務研修の実習受け入れを継続的に実施した。また、職員の資質向上を目的として、外部の事例検討会や各種研修会へ積極的に派遣し、専門知識のアップデートと個別支援スキルの研鑽を図った。

③ **介護保険動向の情報収集と対応**・・・介護保険制度の改正に対し、行政の通知や職能団体の研修等を通じて適宜情報収集を行い、事業所として適切な対応を講じた。

④ **地域交流・地域貢献の推進**・・・地域の認知症高齢者声かけ模擬訓練、オープンケアキッズ、オレンジカフェ等へ参画した。地域住民との直接的な交流を通じ、顔の見える関係性を築くことで「地域に根ざした事業所」としての役割を強化した。

⑤ **情報収集・ネットワークの構築**・・・他事業所との共同研修を開催し、情報交換および強固な連携ネットワークを構築した。また、地域の新規サービス資源の情報を収集し、事業所内ミーティングで共有することで、利用者や家族に対し多様かつ最適な選択肢を提供できる体制を整えた。

⑥ **他部署との連携・他部署への応援**・・・特定技能外国人の引越しの手伝いを行った。感染症対応など他部署と連携を図り他部署への協力を可能な限り行った。

⑦ **SDGsの取り組み**・・・節水、節電、リサイクルごみの分別徹底や毎月一回、施設周りのゴミ拾い等の環境保全を行った。

⑧ **苦情について**・・・第三者委員会にて報告行う。法人で適切な対応を行うことが出来ている。

令和７年度
ヘルパーステーションあいこう
事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を施設サービスの根幹とし、その基本理念を実現するために多職種が協働し在宅サービスの質の向上に努めた。下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。

① 利用者処遇

接遇４か条「１.笑顔　２.挨拶　３.言葉遣い　４.身だしなみ」及び処遇５か条「１.言葉かけ　２.触れ合い　３.笑顔　４.目線を合わせる　５.共感する」を徹底し、利用者一人ひとりの尊厳を重視したケアの提供に努めた。

② 経営の安定

前年度と比較して年間延べ利用者数が７４０件増加。月によって大きく波はあったが、在籍するヘルパーの調整可能な範囲まで受け入れを行った。需要があっても人員不足で止む無く新規依頼を制限せざるを得ない月もあった。人材確保・定着のためにも働き易い勤務体制の整備・登録ヘルパー確保の強化・稼働効率の最適化が課題。

③ スタッフの質の向上

日頃からヘルパー同士または多職種との交流や内部・外部研修を通して知識を高めるためにも、専門性を意識付けする機会を設け、利用者に満足して頂けるサービスの提供が行えるよう、より情報の共有・交換に重点を置き、自己研鑽に努めた。また、ICT を活用した情報共有の効率化にも取り組んだ。

④ 記録・ケアプランの充実

現状に即した計画が提供できるよう利用者の十分な状態把握に努め、定期的にケアプランを見直し自立支援の視点に立って適切な介護サービスが行えているかを確認した。改善点など検討会を通して話し合い、ケアの統一に取り組み、月毎にサービス実施報告書を作成し担当ケアマネへ報告を行った。

⑤ **リスクマネジメント**

介護事故防止に最新の注意を払い安全にサービスを提供することを心掛けた。軽微なミス（物品管理・伝達ミス等）は発生したが、迅速な対応により早目の解決に繋がった。

※苦情について･･･苦情にまでは至らなかったが言葉の受け取り方による誤解、ヘルパーのサービスに対しての過度な期待に対する不満、物盗られ妄想による思い込みなどがあった。

⑥ **報･連･相の徹底**

小さな事でも必ず報告・連絡しながら何でも相談できる環境作りを目指し、日々変わる利用者の健康状態等をヘルパー全員で情報共有し把握できるよう努めた。

⑦ **生きがい支援**

誕生日や敬老の日などプレゼントを贈ることで利用者との信頼関係が強化できた。ヘルパーが訪問することを楽しみにしている利用者も多く、生活環境も良くなりたくさんの笑顔に出会うことができた。

⑧ **他部署との協働･連携**

ヘルパー利用者がデイサービスやショートステイを利用する時には情報交換を行い、共通の視点でケアができるよう努めた。

⑨ **関連サービスとの連携**

各関連サービス・福祉・医療その他の関連領域に従事する方と積極的な連携を図り、利用者が安心して在宅生活が送れるよう協力して行動した。また、近隣事業所や共通する利用者を抱える他法人の訪問介護事業所とも協働して、感染拡大防止、災害時の緊急対応に取り組み、お互いに助け合える関係性の構築を目指し、今後も継続していく。

⑩ **地域貢献**

可能な限り住み慣れた地域での生活を望んでいる住民の方がほとんど。基本的な挨拶などを心掛け、関係性を築くことにより必要な情報の提供・収集が可能となり一人でも多くの方の力になれると考える。感染症の影響が緩和されつつある中、ヘルパーとして今の状況でできる事を行った。

⑪ 制度改正への対応・取り組み

今後も行われる制度改正について情報収集を行った。長い視点でポイントを読み取り安定した事業所運営を目指す。訪問介護事業所には効率性と質の両方が強く求められており、利用者が１日でも長く在宅で過ごせるようヘルパーのスキル向上や他機関との連携を強化し、専門性を持ったサービスの提供を行っていくことを目標とする。

⑫ SDGsへの取り組み

自立支援の視点を持って日々の利用者の生活を観察し、状況に応じて支援内容の調整を行った。利用者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、重度化防止・自立支援に向けた支援を心掛けた。

～近年、認知症高齢者や単身高齢者の増加により地域での生活を支える在宅介護サービスの必要性は一層高まっている。こうしたなか、ホームヘルパーは利用者の重度化防止や自立支援の視点に立ち、質の高いサービス提供の継続に日々取り組んだ～

令和７年度　熊本市北4地域包括支援センター
熊本市高齢者支援センターささえりあ新地
事業報告

①　介護予防支援･介護予防ケアマネジメント事業

◎介護予防支援・介護予防ケアマネジメント計画表（ケアプラン）作成件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護予防支援	包括作成	97	97	96	94	91	94	95	85	89	93	94	92
	居宅委託	65	66	69	68	68	72	67	66	71	72	70	75
介護予防ケアマネジメント	包括作成	58	57	58	60	59	55	57	62	55	56	56	53
	居宅委託	29	30	37	36	36	36	35	38	43	37	36	38
	合計	249	250	260	258	254	257	254	251	258	258	256	258

《委託率 41%》総計 3063

②　総合相談支援業務

1）相談方法・月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	58	59	60	39	42	62	61	73	59	85	70	90	758
来所	11	9	3	5	5	9	8	9	9	13	9	7	97
訪問	112	132	124	138	150	128	134	119	146	154	160	141	1638
合計	181	200	187	182	197	199	203	201	214	252	239	238	2493

2）相談内容別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅・生活支援関係	3	2	1	1	0	1	0	0	0	3	7	0	18
介護保険関係	128	157	134	132	140	148	147	141	156	182	142	168	1775
保健・医療関係	18	11	16	17	17	19	9	10	12	21	32	17	199
認知症について	3	6	6	5	14	5	7	8	9	6	14	7	90
権利擁護について	5	5	3	2	4	4	8	2	4	7	6	9	59
家族問題	2	2	1	1	3	4	3	2	0	4	2	4	28
経済的な問題	6	3	3	2	3	3	3	3	2	4	2	0	34
住宅に関する相談	7	7	9	6	6	11	4	5	8	8	9	7	87
在宅高齢者事業	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
地域支援事業	2	1	2	2	1	2	6	2	5	3	5	4	35
その他相談	7	4	12	14	9	2	16	28	17	14	19	22	164
合計	181	200	187	182	197	199	203	201	214	252	239	238	2493

※苦情について…特になし

③　包括的、継続的ケアマネジメント支援業務

◎定例会・地域行事・連絡会、各種教室、公的保健福祉サービスの広報・啓発等

令和７年度	取り組み状況
※地域との連携体制づくり	☆地域機関の活動等に参加。介護保険制度・健康・予防についての説明、介護予防の体操実施。インフォーマルサービスの収集、情報提供、意見交換。地域包括支援センターの広報誌作成、各校区へ配布する等の活動を行う。
①　各校区いきいきサロン、老人会、介護予防教室、地域支え合い型サービス等	＊サロン：楽しい体操教室　（７回）　どんぐりの会　（６回） コミセン健康教室　（４回）　脳トレクラブ　（４回） 健康づくり教室　（３回）　いきいきサロン（３回） おしゃべりカフェ　（２回）　カラオケクラブ（２回） ひとり暮らしの会　（１回）　男性茶話会　（１回） 新地夏祭り　麻生田夏祭り　八景水谷夏祭り 麻生田健康ふくし祭り　新地クリスマス会 八景水谷クリスマス会　八景水谷花見　新地花見 ＊老人会：八景水谷清老会　（６回） ＊地域勉強会：婦人部勉強会（７/９）　体を知る in 清水（１０/９） ＊地域支え合い型通所サービス 麻生田校区：かたらん会　（６回） 城北校区　：堀川うごこう会（２回）
②民生委員児童委員協議会 情報共有、意見交換	＊民生委員児童委員との情報交換、情報共有広報活動等 ｛麻生田校区（１２回）　城北校区（１２回）｝
③校区ブロック会議 社会福祉協議会、自治協議会、民児協議会、区役所福祉課等と意見交換、検討会	＊校区高齢者の状況について、地域福祉活動への取り組み等の意見交換会、検討会 ・２４日会：麻生田・城北・清水・高平台校区会議　（６回）
④連絡会議・連携会議等	＊校区ネットワークの会　（３回） ＊校区自治協議会　（６回） ＊いきいき未来のつどい実行委員会議　（６回） ＊北区管内地域包括支援センター連絡会議　（６回） ＊権利擁護委員会　（６回） ＊看護職能連絡会議　（６回） ＊生活支援コーディネーター連絡会議　（６回） ＊北区主任ケアマネネットワークの会　（５回） ＊清水まちづくりセンター連絡会議　（６回） ＊自立支援型地域ケア会議　（６回） ＊北区地域包括ケアシステム推進会議　（２回） ＊すまいる新地運営推進会議　（２回） ＊北老人福祉センター運営推進会議　（２回） ＊小規模多機能型八景水谷運営推進会議　（２回） ＊グループホームあそうだ運営推進会議　（２回） ＊定期巡回型ひかり野運営推進会議　（２回）

⑤介護教室・養成講座等	＊家族介護者教室 ・介護者の生活と家族の介護｛講話｝、移乗動作等の負担緩和の方法｛演習｝（ 6/4 ） ・フレイル予防｛栄養｝、終活｛相続｝（ 7/17） （ 9/17） ＊麻生田校区認知症声かけ訓練 ・麻生田小学校体育館（10/25） ＊認知症サポーター養成講座 ・城北小学校 ４学年対象（11/18） ・麻生田小学校４学年対象（ 1/30） ＊麻生田校区総合防災訓練 ・地域住民対象（11/22）
⑥高齢者見守り事業	＊麻生田校区・城北校区在住の７０歳以上の高齢者実態把握の為、ポスティング活動、また必要時戸別訪問

※上記の活動については、感染症予防対策を行った上で開催（リモート有）。

④ 研修会･勉強会等

◎関係機関等との連携を図る為、また、事業所及び個人のスキルアップを行うべく、下記のとおり研修会・勉強会等に参加した。

開催日	研修名	概要
5月21日	地域関係者説明会	避難行動要支援者制度にかかる地域関係者向け説明会
6月20日	ケアマネジメント研修会	ケアプラン点検研修会
7月17日 18日	専門職研修会	高齢者虐待対応現任研修会
7月30日	地域支援事業一部改正説明会	地域支援事業実施要綱等の一部改正に係る市町村説明会
8月 1日	講演会	精神障がいピアサポート講演会
8月 5日	専門職研修会	高齢者虐待対応現任研修会
8月 5日	専門職研修会	精神保健福祉研修会及び自殺予防研修会
8月 6日	合同研修会	生活支援コーディネーター合同研修会
8月18日	専門職県研修会	北区地域連携ミーティング研修会
8月28日	合同研修会	障がい者相談支援センター及び高齢者支援センター合同研修会
9月19日	専門職研修会	介護支援専門員の思考過程と多職種協働（利用者の自立支援に向けて）
9月24日	地域研修会	健康まちづくり研修会
9月26日	熊本市社会福祉協議会研修会	ふれあい・いきいきサロン研修会

９月２９日	専門職研修会	身寄りがない方の入退院時の連携について
１０月１日	セミナー	生成ＡＩセミナー （基礎知識からセキュリティ実践活用まで）
１０月１５日 １６日	専門職研修会	擁護者による高齢者虐待対応研修会
１０月３０日	専門職研修会	がん終末期の在宅支援 （各ステージに応じた支援のポイント）
１１月１５日	専門職研修会	擁護者による高齢者虐待対応研修会
１１月２０日	地域集談会	北区地域づくり集談会 （北区地域コミュニティモデル事業）
１１月２１日	専門職研修会	新しい認知症観とコールセンター―の役割
１月２８日	合同研修会	生活支援コーディネーター合同連絡会議研修会
２月１６日	活動報告発表会	熊本市地域包括支援センター活動実践報告発表会
２月１８日	専門職研修会	法テラスの活用について
２月２１日	地域研修会	障がいサポーター研修会
２月２５日	セミナー	ＡＩ・ＳＮＳセミナー
２月２７日	合同研修会	障がい者相談支援センター及び高齢者支援センター合同研修会
３月１８日	専門職研修会	北区圏域居宅介護支援事業所・地域包括支援センター看護職交流会研修会
３月１９日	合同研修会	生活支援コーディネーター合同意見交換会研修会

※感染症予防対策を行った上で開催（リモート開催も有）。

まとめ（考察）

今年度も、各関係機関との連携・協働、また、地域活動への支援に取り組み、熊本市高齢者支援センターささえりあ新地（熊本市北４地域包括支援センター）の役割が浸透するように努めた。

馴染みの関係づくり、相談しやすい環境づくりを継続しながら、社会福祉法人愛光会の基本理念《夢・愛・自然・尊厳》を念頭に置き、城北校区・麻生田校区の高齢者の方々が、住み慣れた地域で安心して過ごす事が出来るように、地域全体で支え合う支援体制（地域包括ケア）の構築を目指していく。